

学部・学科	担当教員	タイトル	メッセージ・概要
日本文学科	藤井 史果	江戸の「笑い」を読む ～江戸っ子は何をいかに笑っていたのか？～	江戸っ子の「笑い」とはどのようなものだったのでしょうか。歴史的な資料からはうかがい知ることのできない、江戸時代の人々の“普段着の笑い”について、数多くの短編笑話を収めた文芸「噺本（はなしぼん）」における笑い話を通して考えてみたいと思います。
中国文学科	小塚 由博	諸葛孔明のイメージ ―小説『三国志演義』を中心に―	中国三国時代の人物、諸葛孔明といえば、皆さんはどのようなイメージを持っていますか？一般的には、特徴的な帽子（綸巾）をかぶり、手にはうちわのような扇子を持ち、天才的な軍師である、というイメージがあります。これは、昨年公開された映画「パリピ孔明」の諸葛孔明も同様です。このようなイメージは、歴史を物語にした小説『三国志演義』が大きく影響しています。本授業では、歴史上の諸葛孔明像を踏まえつつ、それが小説『三国志演義』ではどのように変わっていくのか具体的に見ていきたいと思います。
英米文学科	藤村 希	独立宣言の一部を読んで、アメリカの成り立ちについて考えてみよう。	今年はアメリカ独立宣言250周年！ですが、アメリカの自由・平等の理念をうたったこの宣言には、「理想」と「現実」の二つの側面があることを知っていますか？現在にいたるまでのアメリカを形づくってきたこの宣言を、文学作品や絵画とともに学び、アメリカの成り立ちについて考えてみましょう。
教育学科	浜田 久美子	子どもの本と図書館と―教育学科の基礎演習での授業例―	なぜ、子どもは本を読んだほうがよいのでしょうか。漢字や言葉を覚えるためだけでしょうか？また、図書館はどのような場所なのでしょう。地元の図書館と大学図書館はどう違うのでしょうか。教育学科の大学2年生に向けて行っている「基礎演習」での1コマをぜひ体験に来てください。
書道学科	丸山 猶計	追憶の書跡～原本をみる眼とその復元～	書道の上達のために、手本の古典をどう見るか、その手本のどこを重点的に見るのか、それはなぜなのか等を、お話します。見る力がつけば、それだけ手本の理解度は上がり、いにしえの筆者との距離感も縮まることでしょう。普段使っている鉛筆一本を、先を研いでご持参ください。
歴史文化学科	池本 今日子	ルイ14世は何でも出来たのか？―ロシアと比較して考える	絶対君主は絶対的権力を持っていませんでした。ロシアの専制君主も何でも出来たわけではありません。とはいえ、理由は異なります。西欧の絶対君主とはどういう存在だったのか、また、ロシアの専制君主とざっくりと比べて、近現代に及ぶ西欧とロシアの相違の元を考えてみましょう。
社会経済学科	松村 岳志	「日本の開国とロシア」	ロシアはおかしな国じゃない！日本人とロシア人は理解しあって、共感しあうことができる！この授業では、江戸時代に日本とロシアとのきずなを結ぼうとした先人たちの努力を紹介して、両国民がそのころからずっと互いを尊重しあってきた歴史を明らかにします。＊筆記用具を持参してください。
現代経済学科	入谷 聡子	貧困と格差の経済分析	途上国といわれる国の中には、東アジア諸国のように急成長を遂げている地域と、いまだ貧困者数が増加しているような国があります。また先進国では貧富の差が広がり、途上国の平均的な生活水準よりも低い水準の生活を強いられる人々もいます。どのように格差や貧困状態を捉えれば良いのか考えていきます。
中国語学科	森 路未央	「お隣の大国“中国”」との関係を考えてみませんか？ ～“中国語+@”で職業力を磨く～	良い時と悪い時を繰り返す日中関係を担う“中国専門家”が日本の各業界（政府、企業など）で不足しています。これは皆さんの将来にとって“チャンス到来”かもしれません。大学時代に「“中国語”+“@”」を創り始めるのも、選択肢の一つではないでしょうか。
英語学科	姫田 麻利子	多言語社会を覗（のぞ）く―カナダとスイスの看板を読もう	カナダやスイスの街の写真（言語景観）を手がかりに、言語と社会の関係を探究します。英語や日本語の知識を活用してフランス語やドイツ語を読み解き、知らない言語にアクセスできる自分の力を発見しましょう。複数公用語社会の背景としくみ考えます。
日本語学科	田崎 敦子	日本語の会話の中にある“当たり前” ―日本語学習者が学ぶべきこと―	日本語の会話には母語話者が「当たり前」として理解しあっていることが含まれています。でも、それは外国人にとっては理解できないことかもしれません。例えば、家族の「お塩とって」「はい」「ありがとう」という会話にも「当たり前」が潜んでいます。授業では、こうしたことをみなさんと考えていきたいと思います。
法律学科	八百 章嘉	職務質問と犯罪予測システム―法とAIの交錯点―	「AIが犯罪予測を行い、その予測に基づき警察官が法を執行する。」映画のような話が現実には起きている社会で、私たちはAIとどのように向き合い、また法はAIとどのように協力し（ときに対抗し）ていくべきでしょうか。街中で見かけることも多い警察官による職務質問を1つの例として、一緒に思索を深めてみましょう。
政治学科	千田 航	なぜ高市首相は解散総選挙をしたのか？―フランスとの比較から考える―	今年1月、高市首相は衆議院を解散して総選挙を実施しました。なぜでしょうか。ここでは、実際に議会で少数派であることから大変なことになっているフランスと比較し、議会で多数派を形成することの重要性について考えます。今回のお話から他国と比較すると日本がみえてくることを感じてほしいです。
国際関係学部	田崎 郁子	虹は何色？文化で異なる色の捉え方	あなたは、虹は二色だ！という人と出会ったらどうしますか？体験授業では、色の認識を事例に、私たちとは異なる認識をもつ人々の見方を紹介します。それは、世界各地で争いの絶えない今だからこそ、異なる他者と共に暮らしていく方途を探る大事な一歩になるはずです。
経営学科	渡邊 直人	もうかるかどうかは、どう決める？ ―文化祭から考える管理会計入門―	みなさんのクラスが学校の文化祭で模擬店を出店することになった場面を思い浮かべてみてください。この模擬店は、たくさん売れれば成功といえるのでしょうか？この体験授業では、成功を数字でどう評価するかを考えます。会社のよりよい選択を支える管理会計の考え方を、身近な事例から学ぶ45分です。
スポーツ科学科	春日 芳美	スポーツは教育的か？ 歴史から紐解くスポーツと教育の関係	スポーツをしていると「礼儀正しくなる」、「人間的に成長できる」というような事が言われます。それは本当でしょうか。「スポーツ」というものがそもそもどのような活動なのか、歴史を知り「教育」ととの関係を考えてみたいと思います。
健康科学科	藤田 和博	「はたらく細胞の世界を詳しく覗いてみよう」	血液の中には赤血球、白血球そして血小板がそれぞれの役割を果たして私たちの生命活動を支えています。また、白血球には5つのタイプがあり、単球は食作用の旺盛なマクロファージに姿を変え、Bリンパ球は免疫グロブリンを作ります。これら、はたらく細胞の実際の姿を詳しく覗いてみませんか。
看護学科	村松 由紀	大学で「看護」を学ぶ意義を考えてみませんか！！	看護学校養成所数は851校、そのうち看護系大学数は310校、短大は12校（令和6年4月現在）です。看護学生の総数は190,222名、学校の種類もさまざまです。では大学と専門学校ってどんな違いがあるのでしょうか。授業の前半は「看護を大学で学んでということ？」と一緒に考えてみましょう。
社会学科	R. G. スチュワート	「マンガ学って何？：漫画学の入門」	従来、マンガは単なる娯楽で、教育機関での勉強・研究と縁のないものとして見られた。しかし、この約20年間に状況は変わり、マンガ学という学際的研究領域の発達でマンガは有意義な研究対象として定着しつつある。大学でマンガを一緒に勉強しましょう！